

童

2015年12月18日。

落ち葉いっぱい12月。なぜ、落ち葉なのでしょうか!?雪で覆われていないからです。雪がないと、こんなに落ち葉が大地の地面に残っているのでしょうか。驚きです。子ども達は、落ち葉でたっぷり遊んだりしている光景は、12月中旬とは思えません。毎朝眺める志賀高原の山々も、青く雰囲気違います。雪降り、雪降り という声が、子ども達からあがって来ています。

クリスマスマーケットありがとうございました。天候や多くの来訪者、そして皆様の熱いエネルギーに恵まれて、素晴らしい時(当日だけでなく、それに至るまでの過程 期間)を過ごせたのではないのでしょうか。今年の大地の行事の締めくくりにふさわしいマーケットになったと感じています。高校野球の3年間で、甲子園へ繋がる大会は、春夏合わせて5回のみ。この5回のチャンスのために3年間全力で練習します。大地の行事は、どんな行事も、3年保育で、3回のみです。その年齢の子どもと一緒に過ごせるのは、人生で、何でも1回のみ。年長児にしたら、大地の行事全てが高校野球最後の夏と同じですね。

でも、高校野球と違うのは、全員メンバーが一軍登録で、全員出場できること。そんな、大地の様々な大会を、ぜひより一層楽しんでいただきたいと思います。

そんな大会の為に、雪が降ってほしいですね。大地では、すでにクロカンスキーやそりなど、いつでもできるようにスタンバイ。そして、スロープには、ジャンプ台も装備できました。2学期中は活躍できませんでしたが、年末年始のキャンプや3学期は、真っ白な世界で子どもたちの歓声が響くことを祈っています。



【長崎再訪】

11月中旬、季節外れの日本海にテントを持って出かけました。今年は、夏以降、日本海の直江津海岸で過ごすことが多く、お気に入りになっている場所です。今の暖冬が予想されたように、その日も暖かく、海で遊べそうな陽気でした。一体何をしに出かけたかと言うと、キャンプではなく、月末に行く長崎での講演内容の打ち合わせでした。

前号の童にも書きましたように、去年は講演を甘く見ていた自分がおり、その結果あのような怪我をして、多くの方々に迷惑をかけてしまったので、今年は、その落とし前の為にも、しっかりと気持ちを向けることが務めだと思ったからです。怪我をする直前まで海を見て走っていたので、もう一度海を見て考えようと思いました。妻と2人で、しっかりと練って、何を伝えたいかと海を見ながら話し合いました。その間に、あれから1年、怪我をする直前まで、同じ海を見ていたんだなあ、その忘れられない証拠に、この顔のしびれ麻痺があるんだと思うと、つい涙が出てしまいました。これも自分の運命だと思っています。

さて、林檎の収穫を終え、京都で直売をすませ、新大阪から新幹線で福岡へ向かいました。当初は、車でと考えていましたが、やはり、あくまでも安全策をとり電車で。初めて2人での新幹線の長旅でした。普通でしたら、盛り上がるのに、今回は、新幹線でもずっと講演内容の打ち合わせで緊張感たっぷり。福岡で乗り換え、特急かもめで長崎へ。この車窓からの眺めがすごかったです。なんと、自転車で走った道路と並行して電車は走っていたのです。天気も陽気も期日もほとんど昨年と一緒。歩きや自転車の移動では、ほぼ確実に道路沿いのお店や看板なども覚えているだけに、全てが思い返されてきて、もうこの電車では、講演のうちあわせどころではなく、ボーっと車窓を眺めているだけでした。

長崎駅下車。やはり異国情緒ありますね。いつもなら、ここで2人感激して、のりのりとなるころですが、いそいそとホテルへ。長崎は、中華街か皿うどんか長崎ちゃんぽんか飲み屋かなどと夜の街へ夕食となるわけですが、私達としては珍しく、夕食を済ませ、なんと7時過ぎには、ホテルへ戻ってきて、打ち合わせをして、就寝。翌朝、変わらず、青ちゃんは4時半ごろ起きて、静かな町を散歩してきました。私たちの合言葉「とにかく舞台に立つまでは、怪我なく!!」

朝食のホテルでは、今回の主催者である天外先生と遭遇し、「今回は、自転車じゃないね、電車だね」と声をかけられ、一緒に講演会場へ向かいました。会場までの道も昨年と一緒の道で全てがよみがえり、会場へ無事着くと、主催者の方々と、無事に辿りついたと、これだけで大感激しました。今回は妻も一緒に講演するので、妻も昨年の申し訳のなさで、気合いが入り、緊張しています。

しかし、ここからが本番。やはり、講演はユーモアと熱さと子ども心を忘れないのをモットーに、主催者に自転車の準備をお願いしました。長崎は坂の街なので、自転車人口は極端に少ないので有名。ようやく間に合ったのは、何と補助付き幼児自転車。

いよいよ講演開始。私たちは4番目の最後。前の人たちは、パワーポイントを使うので、正面には大きなスクリーンがあり、講演者は舞台の横に座り、パソコンを見ながらマイクでしゃべってます。私たちは、今回は映像を使わず、話だけで伝えようと思っていました。映像を見せた方がストレートに臨場感あふれて伝えやすいし、大地のような自然豊かにダイナミックに遊ぶところは、映像にもなり易いですし、話も少なくして楽に(見てくださいますとえば楽)すみませんが、やはり、楽は良くないし、何よりも、お客さんたちの顔を見て、気持ちを伝え、そこから想像してもらおう、この方が相互にいいことがある(直前に、メディアにむしばまれる子ども達も読んだせいか)と思います。普段の大地の教育の求めるミッションとも共通なのです。そして、350人位の観客だったら、マイクなしで舞台の中央で話すことができるかもしれない!!

私達の出番。直前に、青ちゃんは舞台裏へ消え、自転車に乗りスタンバイ。青山繁と紹介されると、妻が登壇して「実は、青山繁は女の私でした」などと妻は似合わないジョークを言い、その後「目の窓あけろ」やわらべ歌を行い、一気に会場の雰囲気を一新してくれました。そして、昨年の不備をわびた後、「1年間のご無沙汰でした」と紹介してくれ、自転車で登場。「今回は、主催者から自転車で来ることを咎められたので、残念ながら、今回は、この自転車でこの舞台間だけ、乗ることを許してもらいました」と挨拶をすると、一気に笑いが頂点へ。後は、生きる力やメディアの問題、そして、大地に集う大人たちのエネルギー、熱い人生が子どもたちの教育に不可欠という事を、マイクなしで伝えることができました。子ども祭りやクリスマスマーケット同様、やはり準備期間やその過程で燃えると、やはり充足感が違いますね。

この夜は、イルミネーションが始まった長崎グラバー邸などをゆっくりと歩き、長崎の夜を楽しみました。翌日は、半日たっぷりかけて、原爆資料館を見て新たに日本の将来、現状の日本、子供たちの未来、そして大地の在り方を考える素晴らしい機会となりました。今回の長崎、去年の落とし前をつけたのと同時に、更に新たな課題を見つけた機会となりました。これで、顔の怪我、後遺症も癒されそうです。怪我事故に感謝です!!長崎ありがとう

